

<p><研究課題名></p>	<p>E-1001</p>	<p>アジア低炭素社会の構築に向けた緩和技術のコベネフィット研究</p>		
<p><研究概要></p> <p>本研究は、2013年以降の新しい国際枠組みで実施される可能性がある新メカニズムを視野に入れて、さまざまな技術オプションについてコベネフィットと時間的な展開の両面から分析・評価した結果を提示する。アジア低炭素社会の構築に向けて、2013年以降の国際対策の意思決定に求められる成果を提供する。</p> <p>(1) エネルギーチェーンLCA*モデルおよび地理情報システムによるアジア主要地域における各技術オプションの検討</p> <p>2030年頃の中国、インドなどアジア地域の数地点におけるCDM**プロジェクトを想定し、技術オプション毎に地域レベルで推定されたCO₂、NO_x、SO_x等のライフサイクル排出削減量と各種技術の導入ポテンシャルを明らかにする。サブテーマ間の連携強化により目標であるコベネフィット研究を取り纏める。</p> <p>(2) 緩和技術に関わる社会的認識についての調査・分析</p> <p>緩和技術の技術オプションにより引き起こされる環境負荷を想定し、その経済価値評価を行うための社会調査を、CDMプロジェクトの対象となり得る地域で実施し、環境影響の経済価値評価と環境意識の分析を行う。</p> <p>(3) 新オフセット・メカニズムにおける緩和技術のコベネフィットを考慮した技術的・経済的評価</p> <p>サブテーマ(1)のチェーンLCAモデルによって得られる各技術オプション評価結果、及びサブテーマ(2)の社会調査評価を基に、対象主要地域におけるコベネフィット分析を行う。2013年以降の新しいオフセット・メカニズムを想定したコベネフィット便益の定量化(見える化)の手法の検討を行う。これらの出力データを、サブテーマ(1)の技術オプション評価と共に、サブテーマ(4)に受け渡す(モデルのソフトリンク)作業を実施する。</p> <p>(4) アジア地域におけるコベネフィットを考慮した緩和技術の導入分析</p> <p>マクロなエネルギーシステムモデルを用いて、アジア地域で展開される可能性のある新オフセット・メカニズムによる緩和技術の導入を分析することにより、オフセット・メカニズムにコベネフィットを組み合わせる手法の効果を定量的に明らかにする。</p> <p>* LCA(Life Cycle Assessment): ライフサイクルアセスメント ** CDM(Clean Development Mechanism): クリーン開発メカニズム</p>				
<p><研究代表者></p>		<p>内山 洋司</p>		<p>筑波大学 システム情報工学研究科 教授 (60才)</p>
<p>No.</p>	<p>サブテーマ名</p>	<p></p>	<p>氏名</p>	<p>所属機関名・部局・役職名</p>
<p>(1)</p>	<p>エネルギーチェーンLCA*モデルおよび地理情報システムによるアジア主要地域における各技術オプションの検討</p>	<p>◎</p>	<p>内山洋司 岡島敬一</p>	<p>筑波大学・システム情報工学研究科・教授 筑波大学・システム情報工学研究科・講師</p>
<p>(2)</p>	<p>緩和技術に関わる社会的認識についての調査・分析</p>	<p>○</p>	<p>野村 昇</p>	<p>独立行政法人産業技術総合研究所・安全科学研究部門 素材エネルギー研究グループ・主任研究員</p>
<p>(3)</p>	<p>新オフセット・メカニズムにおける緩和技術のコベネフィットを考慮した技術的・経済的評価</p>	<p>○</p>	<p>西尾匡弘 遠藤栄一</p>	<p>独立行政法人産業技術総合研究所・エネルギー技術研究部門 エネルギー社会システムグループ・グループ長 独立行政法人産業技術総合研究所・エネルギー技術研究部門 エネルギーネットワークグループ・主任研究員</p>
<p>(4)</p>	<p>アジア地域におけるコベネフィットを考慮した緩和技術の導入分析</p>	<p>○</p>	<p>村田晃伸</p>	<p>独立行政法人産業技術総合研究所・エネルギー技術研究部門 エネルギーネットワークグループ・グループ長</p>